

令和2年度第1回苧田町総合教育会議 議事録

1 日 時 令和2年11月19日(木)
開会 13:00 閉会 14:00

2 場 所 三原文化会館大ホール

3 出席者 苧田町長 遠田 孝一
苧田町教育委員会
教育委員 沖永 圭子
教育委員 石邊 節雄
教育委員 原田 真喜子
教育委員 下野 孝次
教育長 井上 三津子

事務局関係

教育総務課長	吉永 康彦
生涯学習課長	森 由美子
教育総務課次長	和才 輝俊
生涯学習課次長	近藤 哲也
生涯学習課副課長	守 秀典
教育総務課庶務担当係長	崎平 美加
財政課長	藤原 昌彰
子育て・健康課長	種生 純子

4 協議・調整事項

- (1) 今後の教育方針について
- (2) その他

5 議事の概要

◇開会

崎平係長

それでは、ただいまから令和2年度第1回総合教育会議を始めさせていただきます。
お手元の次第に従いまして、初めに遠田町長よりご挨拶をお願いいたします。

◇あいさつ

遠田町長

皆さんこんにちは。今日は、総合教育会議にご出席をいただきまして、ありがとう

ございます。日頃から教育委員会の色々な運営にご尽力いただきまして、本当にありがとうございます。

今日は、久しぶりの総合教育会議で、私の考えなどを述べさせていただければと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

崎平係長

ありがとうございます。次に、教育委員会を代表して、井上教育長にご挨拶をいただきます。

井上教育長

皆さんこんにちは。皆様におかれましては、日頃より、町教育行政の推進のためにご理解ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

4月に教育長を拝命し、新たに沖永委員、下野委員をお迎えして、新しい体制で出発をしたところでございます。今日までコロナ禍ということもあり、初めてで、これまで経験したことのない難しい選択と決断の日々を送ってまいりました。

今年はこのコロナ感染を始め、GIGAスクール構想の実現、子育て支援策など、教育を取り巻く環境も大幅に変化していくターニングポイントとなる年だと考えております。

今日は町長に、町としての考えや教育の方向性などを伺い、これからの教育行政推進に反映していきたいと考えております。率直な意見交換、協議が深まることを期待いたしますとともに、教育への思いや、考えを共有してまいりたいと思っております。どうぞ最後までよろしくをお願いいたします。

◇協議・調整事項

崎平係長

ありがとうございます。それでは、議題の方に入りたいと思いますが、まず荻田町の教育について、町長のお考えを聞かせていただきました後に、委員の皆様よりご意見をいただく中で、荻田町の教育の課題でありますとか、今後あるべき姿について、互いに共有出来ればと考えておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

また今日は、藤原財政課長、種生子育て・健康課長にも同席をいただいております。

では、町長の方から、町の教育について、お考えの方をよろしくをお願いします。

(1) 町長の教育方針について

遠田町長

では座ったまま失礼させていただきたいと思っております。時間も制限がありますね。

崎平係長

はい。1時間を予定しています。

遠田町長

まず、コロナの話が出ましたが、今、荻田町で19名発生をしています。8月28日、29日に18例目、19例目が出て、それ以降は今のところ出ていないのですが、先日、みやこ町で感染者が出ました。大都市では既に過去最高値が出ていますので、足音が聞こえてくるような気持ち悪さです。コロナ禍で、色々な財政的支出もあり、町民の皆様、教育委員の皆様には、色々なご負担をお掛けしたり、ご苦勞をお掛けしていることに感謝申し上げたいと思います。

大きく4点について、お話をさせていただこうと思っています。

まず教育について、基本的な考え方は、教育が素晴らしいと町の魅力に繋がると思っています。ですから、教育がうまく行っているところは、その自治体、荻田町で言いますと、教育がうまく行くと荻田町の魅力に繋がると思っています。前町長の時代から、ずいぶん教育に予算を投資してまいりました。それで教育の色々な評価があるかと思いますが、今一つだと私は思っています。それは何について評価するのかということになるかと思いますが、子ども達の学力が一つの指針、指標になると思います。子ども達の学力を上げるためにどうすればよいのか、環境を整えるためにどうすればよいのか、ということを考えていかなければいけないと思っています。

荻田町の未来を担うのは子ども達ですので、この子ども達に対して投資をするのは、町として大切なことだと思っていますので、予算からお話をさせていただきます。

町長になって、11月13日がスタートでしたから、3年が過ぎて4年目に入りましたので、任期があと1年を切った状況になります。

教育関係で大きくどんなことをやってきたかと言うと、普通教室にエアコンを付け、次の年にはパソコンを全て取り替えたことが大きなことかと思えます。今年度は、コロナの影響で夏休みも授業を行いましたので、特別教室にもエアコンをというニーズを色んな方から聞きましたので、今年度補正予算で来年の夏までに特別教室にもエアコンを付けようということで、今作業を進めてもらっています。

また今年に入り、文科省からICTの教育、デジタル化が大きく旗振りが出来ましたので、町も乗り遅れてはいけないということで、タブレットの購入、インターネット、Wi-Fi環境等、通信環境の整備を行うことにも尽力してまいりました。私の中では、ハード対策には予算を投入してきましたが、子ども達の学力を上げるソフト対策がもう少し必要かなと思っています。学力を上げるためには何が必要か、私が思うのは、先生方の指導力、力量、スキルが上がる必要があるのではないか、そこにはどういう投資が必要なのか、まだ具体的に出来ていないと思いますので、教育委員会の皆様のご議論をいただきながら、色々な提言をしていただきたいと思います。

今年度、教育予算に投資したのは、人材確保に対する経費として、教育活動支援員、ボランティア、スクールサポートスタッフ等の人件費として2千500万円あまり、

学校ICT環境整備に関する経費として約3億4千万円、学校施設の整備更新として1億2千300万円、コロナ対策の経費として6千100万円、その他、中学校の楽器の更新等200万ほどで、合計しますと5億5千100万円くらいが今年度教育に関する投資だと思っています。それと先ほど言いましたが、これに加えて特別教室のエアコン設置に1億5千万円くらいだと思っていますが、さらに追加で学校に投資をするということです。

財政の状況は、平成21年から27年まで赤字が続きましたので、その間に行財政改革ということで経費節減の動きがありました。これで大丈夫かということそんなことはありません。今後、大きくお金を使う事業がたくさん控えていますので、財政の運営が最も大事だと思っています。健全な財政を維持しながら学校はもちろん、他の事業にも気配り等をし、事業を進めたいと思っています。

それからもう一つのテーマとして、子ども達の放課後児童クラブ、子どもひろばの考え方について、令和2年3月に文科省、厚労省の連名で、総合的に放課後の子ども達を一体的に管理するという指針が示されました。それ以前から私も、学校で子ども達を先生方が面倒を見て、その後、放課後児童クラブ、子どもひろばで別の方が子ども達の面倒を見ていますが、これは一体的に、同じ荻田町の子ども達ですから面倒を見る方が良いのではないかと私は思います。文科省、厚労省からの資料では、放課後子ども教室（ひろば）は、一体的な推進を図るべきで、全ての小学校で二つの事業を一体的に連携して行うようにし、学校の施設を徹底的に活用するようという指針が示されました。

このようなことから、この事業については、教育委員会が所管して一括して行うのが適当だろうと思いました。来年の4月には、今、子育て健康課が所管しているこの事業については、教育委員会で所管をしてもらうということを決めまして、今年1年が移行期間だと思っていますので、来年4月には移管して進めていきたいと思っています。

しかしながら、この施設には教室が足りないという現状があり、1年生から3年生までの子ども達を受け入れたいと思っていますが、実際には入れない子ども達がいるので、計画的に、昨年、与原小学校の設計を行い、校舎の増築と放課後児童クラブの教室を増築するのが令和3年度に実行できると思います。それから、荻田小学校もこういう状態になっていますので、令和3年度に設計をして、令和4年度に工事を行うというところまで決めていましたが、先日、教育長とお話をする機会があり、馬場小学校にも放課後行きまして、ずいぶん窮屈な状態で子ども達が詰め込まれている状況になっているということで、出来れば、その次に馬場小学校の放課後児童クラブの拡張を図り、1年に1学校ずつ計画的に進めていくということで、できるだけ保護者が働きたいというニーズを学校で預かることで、安心して預けられるという環境を少しずつですが整えたいと思っています。

それから3つ目に、荻田町の大きな取り組みとして、色んな事業をやっています。教育とは離れますが、下水道事業を展開しており、線路から上側はまだ十分に出来て

いませんので、毎年3億円以上つぎ込んでいます。それから、与原区画整理事業に3億円くらいを予定していましたが、このままでは工事が終わらないということで2回延長をし、令和9年までには工事が完了するようになっていましたが、毎年3億円では終わりそうにないのがわかってきましたので、方針を変更し、令和9年に終わるように予算を少し積み増ししています。また出来ていないのが、し尿処理場が老朽化していますので浄化センターに移転する。ごみ処理場も老朽化していますので更新が必要、それから、小波瀬駅の整備もやりたいと思っています。

さらに公共施設の老朽化が進んでおり、役場の庁舎ももうすぐ50年になりますが耐震化が出来ていないし、学校の校舎も見に行きましたが、ずいぶん傷んでいます。子ども達の環境を整えるために、今はICT、エアコンを行っていますが、校舎に対する投資が必要だと思っています。学校の投資と他の公共事業の投資、全部を一度にはできませんので、計画的に進めていく計画を作ってもらい、出来れば12月議会で、当面、優先的に行っていく事業を示したいと思っています。大きなお金がいる事業がたくさんあることを理解していただいて、とは言いながらも、教育には予算を付けてきましたが、これからも行っていきたいと思っています。特に教育については、校舎の更新が必要だと思っています。

次に、教育委員会には職務権限があり、教育に関することは教育委員会にお任せをして、色々審議をいただくというルールになっていることは認識していますが、将来を見据えた建設的な提言を教育委員会としていただければ、私どもは真摯に受け入れ、検討して町全体の投資の状況を見ながら、考えさせていただきたいと思っております。

あとは、個別にご質問をお受けしたいと思えます。

崎平係長

ありがとうございます。それでは、町長のお考えを受けまして、委員の皆様方の立場や、お職業で違った視点をお持ちだと思いますので、委員の皆様方からご意見等がありましたらお願いしたいと思います。自由な協議の場にさせていただけたらと思っていますので、よろしくをお願いします。

遠田町長

少し付け加えさせていただきます。

教育長が替わられて、教育長と定期的に意見交換をしましょうということで、もう何度か意見交換をさせていただきました。教育長の思い等を聞いて、出来るだけそれを反映させるということで、確か特別教室を追加するというのを、教育に強い思い等があり、必要だという判断をさせていただきました。

教育委員の皆さんは、色々な知見をお持ちだと思いますので、言われたから全て出来るかということ、先ほど申しました通りたくさんの課題が控えていますので、優先順位を付けさせていただき、実施していかないといけないというのはご理解いただいて、ご意見を賜りたいと思っております。

崎平係長

予算の裏付けは執行部で考えてくださると思いますので、教育委員会は教育のことを考えてご意見をいただけたらと思います。

石邊委員

予算がないから出来ないというのではなく、先ほど町長が言われた、委員会から出した要望はお聞きするという事でしたから安心しましたが、委員会が要望して、今年予算がないから申し訳ないという話であればよいのですが、私達が要望をしても何もしないのであれば、私達の教育委員としての立場がありません。保護者等の情報を聞き、フィードバックするのが教育委員と思っています。

また、先ほどの放課後児童クラブの件ですが、与原小学校は、与原保育園に行っていますが、来年3月でやめるので、その間に行けない子どもが出て、タイムラグが出ると思います。

遠田町長

それは、与原保育園が来年3月でやめたいという話で、4月からどうするかということですが、みどり幼稚園が受け入れていただけるということなので、今年度中に施設の改修を行って、子ども達が行かれないように、来年の4月からは、みどり幼稚園で放課後児童クラブを予定しています。

石邊委員

みどり幼稚園が40人を超えた場合は、補助金が出ないという、そんな話は知っていますか。

種生課長

今、石邊委員が言われている内容は、1施設40人までが、国からいただくお金と保護者が出していただくお金の最高額が出るという人数になっていまして、40人を超えた場合、国からのお金が減額されてくると、その代わりに、保護者から出てくるお金が年間を通して、毎月5千円程度の放課後児童クラブ利用料として払っていただきますので、その分を積み上げて、国からの交付金は、人数が増える分、少しずつ減額していきませんが、利用者からの負担分が増えますので、国からのお金は減りますが、保護者負担額は運営者側に入りますので、全く無くなってしまいうということにはなりません。

石邊委員

足りない分はどうなりますか。

種生課長

積み上げの人数が余りにも増えると、だんだん厳しくなってくるのが現状です。

石邊委員

与原保育園がやめる理由も、面倒を見る人が集まらないと聞いていますが、みどり幼稚園が集めたからといって、放課後の面倒を見れる人が、今のままで集まるのかなという危惧があります。町が補助等をしてやらないと厳しいと思います。先ほどの町長の話だと、同じ人が放課後とも言われていましたが、学校の先生に面倒をと言っているように思えましたが、同じ人とはどういう意味ですか。

種生課長

新放課後子ども総合プランという中に、今、言われています厚労省が所管している放課後児童クラブと、文科省が所管している子育てひろばを一体化するというのを、国が指針で示したので、そのことを町長が言われております。

石邊委員

誰が面倒を見るのか、同じ人という表現が気になりました。

遠田町長

言い換えます。今は役場の組織というのは縦割り組織なので、教育委員会の傘下において、学校教育と放課後の子ども達を見るセクションが、教育委員会の傘下におくのが一体的に見れるということになり、文科省、厚労省の趣旨に沿った形になるので判断をしました。

石邊委員

面倒を見るスタッフの補充等はどう考えていますか。

遠田町長

南原小学校の事業者の方が3月でやめたいということになって、そこも新しい事業者の方をお願いをして、進めてもらうように準備を進めています。そこは今、子育て健康課が担当ですから、そういうことをキチンと整理をして、4月からの新しい移行に備えて準備をしています。

みどり幼稚園とは話していませんが、先日、馬場に行った際に、馬場で子ども達を見ている人に、今度、南原で見るようになった時に、世話をする人達は大丈夫ですか、と責任者の方にお尋ねしたら、心配しないでください、揃えますという話でした。

石邊委員

それは頼もしい。与原保育園がやめた理由は、スタッフが集まらないと聞いていま

した。

種生課長

与原保育園で見えていただいている子ども達は40数名で、見ていただけるメインの先生がお辞めになるということで、補充したいということになりましたが、次の方がなかなか決まらないということで、その部分がクリアできないので、休止をさせて欲しいという話になりました。

石邊委員

課長の言っていることと、私が聞いている話が合致するのでよいのですが、それくらいスタッフがいないのですよ。給食センターもそうでしたが、今はコロナで生活が逼迫している状況で、パートの人達に、町独自の基準で賃金を上げてやらないと、人は集まらないと思います。今、民間は人が足りないから賃金が上がっている状態ですので、賃金を上げてやらないといけないと思います。

先ほどの話の中で出てくるかと思っていましたが出なかったのが、給食センターの人が足りないというのも、労働環境が余りにも劣悪だと思います。

遠田町長

今、給食センターの話が出ましたが、給食センターは、調理員の方が少なく、運営が厳しい状況が続いていたのは事実です。ですから、子どもも部外に委託する等いろいろ考え、教育総務課とも話をし、調理員の報酬を上げ、環境整備に力を入れようと、エアコンを3台入れて環境を少し改善し、現在は調理員が不足するという状況は脱していると聞いております。

石邊委員

報酬が上がった分は、厚生年金の掛け金で、実質の報酬は上がってないですね。

給食センターはマンネリで、人が足りません。教育総務課の職員はいつでも手伝いに行けるように検便もしていましたよね。

遠田町長

そういうやり方は応急的な方法で長続きしません。本当に調理員が足りなくなり、うまくいかなくなったら、外部委託等も考えないといけないと私は考えています。

しかし、荊田町の給食はおいしく安心だということを知ると、子ども達のことを思うと、何とかこの形で維持したいと思います。

石邊委員

町長は、給食を食べたことはありますか。

遠田町長

あります。

石邊委員

給食センターの話で、学校の先生に関係しますが、給食費を集めるのが先生方の負担になっていると、新聞に載っていましたが、荊田町では給食費は一般会計に入れているので良いと思いますが、他町の場合、特別会計で給食費が集まらなくて大変ということも聞いています。荊田町も以前、銀行振込みにしていましたが、収納率が悪いということで、持参方式に変更しましたが、先生方の負担が大きいと思います。

現在コロナ等で景気も悪いし、仕事もあまりない状態なので、先生方の負担軽減と家庭の経済的な助けとして、給食費の無料化を若い世代への景気対策の一環として検討されては如何かなと思っています。

遠田町長

今年コロナ対策として、6月、7月、8月の3か月間、給食費を無料にしました。そうすることで保護者への支援が出来るのではないかと考え実施しました。コロナであとどれくらい費用が掛かるのかわからない状況で、いつ第3波が荊田町に押し寄せて来るかもわからないので、先日火曜日に臨時議会を開催し、コロナ対策として2億円ほどを決めたのですが、他にもっと必要なものもあるのではないかという話もありますので、その時の選択肢として、石邊委員が言われたように、給食費の減免も一つの方法だと思います。先生方の負担軽減にもなると話は伺っていますので、全体を見ながら、教育委員さんのご意見も聞きながら、給食費を集めないのが良いと思いますが、荊田町がずっと給食費を負担する制度を作っていくことは、慎重にすべきだと思います。税収が今のままだと良いのですが、今後、税収が減収し、財政負担になった場合に元に戻せるのか、大変難しい判断で、今のところコロナ対策は、期間限定でさせていただきます。今のところはそういう考え方です。

石邊委員

ご一考ください。

崎平係長

本日は、自由な協議の場ですので、委員の皆さん、日頃お考えのご意見や、町長に聞いてみたいこと等をお願いします。

下野委員

町長の教育委員会に対するご意見を聞かせていただき、ありがとうございます。

教育が良いと町の魅力に繋がると、一つの尺度としては、子どもの成績なのですが、その要因として、先生方のスキル等を上げていかないといけないという考えを聞いた

のですが、まさしくその通りだと思います。子どもは学力テスト等を行って、他地区とのレベル差が見られると思いますが、先生方も子どもを通じての評価ではなく、先生としてのスキルがどれくらいあるか、ある一定の尺度で計って、どういうところが弱いので先生方の教育もこのようにしていかなければいけない、と考えていくべきだと思います。

今、国から小学生に対して、プログラミング教育を推進しなさいとの通知が届いていると思いますが、私の会社の前任者が行橋の教育長をしていますので話をすると、先生方がプログラミングに対して少し疎いところがあり、大変失礼かもしれませんが、疎い先生方が子どもに対してどうやって教えていくのか、大きな問題があると聞いています。教える側のスキルも世の中の情勢によってどんどん変わってくると思います。ですから、先生方が、今、必要なスキルを持っていないと、子どもに対してしっかり教育ができないと思うので、こういうところのガイドライン等をしっかり作り、それに対するプログラムを考えていくべきだと、先ほどの町長の話聞いて感じたところではあります。もしこの場で論議が出来るのであれば、今後論議をしていくべきではないかと感じました。

後はコロナの話ですが、例年、小学校5年生を対象に社会科見学を行っており、小学生が自動車会社の見学を行うのですが、今年は一切受け入れてなく、5年生の社会科見学が出来なくなっています。会社としても色々考えて、リモート授業を通じて車づくりを教えるプログラムだとか、自動車会社が代表者を学校に派遣して、ニーズがあれば出前授業という形で、車づくりの資材を用意して教えていくというプログラムを作っています。苅田町には6小学校あり、殆どの学校が申し込まれていますが、馬場小学校だけが申し込みがなく、そこは統一感を少し出していきたいと思います。苅田・南原・与原小は出前授業を、片島・白川小はオンライン授業を望んでおり、5校は対応しています。

コロナにより、今まで行っていた教育内容が若干変わりつつあると思います。コロナだから出来ないというのではなく、社会科見学もこういう状況だからこのように行くと、社会科見学だけの話ですが、もっと他に色々なアイテムがあると思いますので、こういうところも少し議論していくべきだと思います。ご意見までですが。

遠田町長

今言われました、先生方のスキルを上げる話ですが、あまり頻繁には行けないのですが、中学校に行ってみようと思い、時間が取れたので事前に連絡をして、新津中学校と苅田中学校に行き、校長先生から、ICTの準備等の話を中心に色々聞きました。高齢の先生方はタブレット等を使うのが苦手な人がいるのかも知れないし、また、先生方は自分の授業のやり方があり、プリント等があって、これにより進めるとかの話があるのを聞いて、これをタブレットとかに映して、子ども達にタブレットで配るとかが、新しい教育の在り方になってくると思います。ですから、そういうことを先生方に受け入れてもらう、ICTに対して拒否反応を起こす先生がいたのでは困るなど

私は思っています。時代の趨勢だと思えますし、先生方の授業もICTを使った授業でスキルを上げていく、もっと効率よく授業を行う。

こんな話を聞きました。宿題を出したら、宿題を持ってこなかった。子どもに聞いたら、宿題はやっているが持ってくるのを忘れた、みたいな話があるのですが、ICTになるとタブレットに答えを書くので、明日の朝7時が締め切りとなったら、その時に出来ているか出来ていないかは簡単にわかるし、理解していないところはどこかも、個別に判断できるようになると言われると、今までの授業にはない効果的な授業が期待できるのかなと思えますし、しかしそうは言っても、私はアナログの時代ですが、それだけではいけないと思います。先生と子ども達が触れ合い、話をしたりするもの、先生の魅力だし、子ども達には大切なことになるのではと思っています。

石邊委員

先ほど、下野委員が言われたスキルアップのこと、教育長、校長会から要望があったのではないですか。実施するなら、町長に予算とかの要望をしないといけないのではないですか。

遠田町長

ICTに関連して、教育長からお話を聞いているのは、一人当たり千円くらいのソフトをタブレットに入れると、すごく授業が進めやすいものがあるので要求したいと聞いていますので、予算を正式に要求してくださいと言っています。

今ちょうど、来年度の予算を締め切る時期なので、各課から要求が上がってきます。

石邊委員

それがあるので、教育長に総合教育会議を開催して欲しいと言ったわけですが、校長会から、先生のスキルアップをしてほしい、タブレットが導入される前に、事前に使いこなせるように勉強する場を作って欲しい、と言われてっていると私は聞いていますので、それに対する予算等を認めていただきたい。

遠田町長

私はこんなことを思っています。タブレットが入って、タブレットの使い方を覚えるのは先生のスキルアップではないと思っています。タブレットを使って、どんな効果的な教育が出来るか、というところまで効果を発揮させてもらいたい。タブレットを使って子ども達にプリントを配るとか、情報だけでは駄目だと思います。もう少しそれを使ってどんなものができるのか、それは先ほど言ったソフトかもしれません。業者は、タブレットが入った時に色々教えてくれると思いますが、それは当たり前で、それは絶対に覚えてもらわないといけません。

石邊委員

今までの例を見ていると、電子黒板一つをとっても有効活用が出来ていません。先生の能力の問題、次元の低い問題で、町長の言われているのは高い望みを言われていますが、もっと基本的に教育する場が欲しいというのが、校長会の意見だったと私は思っています。業者に教育をお願いしても、無料では教えてくれないと思います。

原田委員

今言われているICTは、私が教育委員になって、数年前から、ずっと進めていると言われており、今回やっと予算が付いたので今年買いますとなりましたが、コロナになった時には、もうICTが始められたのではないかなと思います。お金がないと、道具がないと何もできませんというイメージがあったので、この度、予算が付いて、ここまでに購入できます、では、購入する前に、道具が揃う前に出来ることがあるだろうと思っているので、そこのところを町長や教育長がどんどん発信していかないことには、先生方は何にも動かないと思われるので、早急に動いてくれということを指示していただきたいと思っています。

遠田町長

具体的にどういうイメージですか。

原田委員

先生の教育で言うと、別に全員の先生が使えるようにならなくてよいと私は思っていますが、各学校に2、3人の得意な先生がいれば、その先生が指示、進めていけるのではないかと考えているので、各学校から2、3人でもよいので集めて、勉強会のようなものをどんどん開催するという指針を与えてもらったらと思っています。

遠田町長

タブレットの得意な先生が、各学校に何人かいると思うので、その先生方がリーダーとなって、自分の学校で事前に勉強会を開催すれば、タブレットが届いてもスムーズに行くのではないかとのことですね。確かに言われる通りだと思います。

石邊委員

他の先生も同じようにしないといけないと思いますが、先進地で取り入れている市町村があるので、その見学に行き、どのように使っているか等を勉強する旅費、日当も必要なので、そういうことにも町長が予算を出していただければと思います。

遠田町長

先ほども言いましたが、ハードでも相当なお金を使っています。しかし次はソフト

で、先生方の力量を上げることが必要なんだ、ということになるのであれば、荊田町の魅力を作るとしたら学力テストで地域ごとに評価されるわけです。荊田町の学力テストはレベルが低いね、と私の耳に入ってきますので、どうしたらレベルが上がるのかということを考えてもらう。その一つの方法が石邊委員の言われることだとしたら、ぜひ要求してください。むしろ、先進地に行ってください、と言いたいくらいです。

コロナの時（春の学校休業時）は、荊田町は出来なかったのですが、先進的なところは既にタブレットを導入した市町村があり、子ども達は家にいながら授業が出来るような、リモート授業が出来るようなところがありました。残念ながら荊田町は出来ませんでした。だから今度、タブレットが入って、もし学校が休校になり、リモート授業が出来るかとなったら、子ども達のそれぞれの家庭にインターネットの環境があるかが大事になってくるわけです。家庭的な事情でインターネットの環境が整わない家庭があるとしたら、それは全員にとはいかないと思いますが、町としては手配してやる必要があると思います。子ども達が平等に、同じように教育が受けられるようにしないといけないので、教育委員会内では、今度休校になった時には、リモート授業ができる準備を進めていただけるという認識をしています。

石邊委員

今、ICTの環境があるか、無いか、調べている段階です。

井上教育長

調べ終わっています。

石邊委員

どれくらい予算が必要かも試算しないといけないのではないですか。

井上教育長

既に予算化しています。

石邊委員

私達が一番恐れているのは、コロナが広まり、子ども達が自宅でリモートがいつでも出来るようにするのが、今のところの目的だと私は思っています。

遠田町長

今年の春に出来なかったことを反省して、次に起こった時には準備をしようということには言っています。

石邊委員

他の学校でもリモートは行っているのだから、先進校に行って視察しないといけないと

思います。以前、電子黒板等は韓国が進んでいるということで視察に行きましたが、フィードバックしていないですね。

遠田町長

何年も前に導入した電子黒板は、今使いづらいものになっていると聞きますので、先生方のモチベーションとか受け入れる気持ちがないのに、物だけ与えるという政策ではだめだと反省しています。もっと使いやすい電子黒板にして、タブレットを使った授業で、子ども達にわかるように教えられるということになるのであれば、新しいものを購入することになります。必要かどうかということは、ご意見を聞かせていただきたいと思います。

石邊委員

いくら道具があっても、使えなかったら一緒だと思います。町長は使えるようになるのは当然と思っているようですが、先生方が使えるような環境を作らないといけないと思います。

崎平係長

沖永委員の方からお願いします。

沖永委員

先ほど町長から言われた学力テストは、私もすごく気になっており、何年もの荊田町の課題と思っています。

町長から、先生方の力量向上のためには何をしたらよいか、と言われていましたが、学校は今、若い先生が多く、30歳後半で学校の中核になっていけない状況で、なかなか先生方の力量の指導までは出来ていません。

年1回の学力テストではありますが、子ども達がこれから生きてゆく学力でないといけないと思います。そうであれば、学力向上に特化した方がいて、年に1回ではなく、月ごとに段階的に指導する形にしないと、今までも力量を上げましょと、色々研修も行ってきましたが、なかなか上がりません。

私は、すみれ教室にもいましたが、中学校2校しかないのにテスト問題が違うものが届きます。このまま高校に行った時にこの子ども達は苦勞するのではと危惧しました。本当の学力を付けないと、将来、荊田町の子ども達は困ったことになるのではと思います。

中学校は2校で、同じ時期に期末テストがあるので、問題をお互い精査すれば、比較もできるということで、先生方の力量も上がってくるのかなと思います。

学校では、若い先生のスキルもあるし、学力向上に特化した方がいて旗振りをしないと、なかなか学力は上がっていかないのかなと感じました。

遠田町長

学力を上げるための方法、それは先生方の力量、スキル、資質等に大きく影響を受けると思います。学力テストの結果が出たら、例えば数学の因数分解は、どちらも出来ていないとか、こちらの学校は出来ているのに、こちらの学校は出来ていない等の分析が出来ると聞いていますので、具体的な方法・内容は、私どもが関与するよりも教育委員会の中で共有化を図る等を議論していただいて、予算が必要であれば、教育委員会として効果的な方法を示していただければ、考えていく必要があると思っています。

時間が少なくなりましたが、人の管理、物の管理、資金の管理、情報の管理、この4つが大事だと言われていています。今、教育だけに突出して予算が付いていますが、文科省が今年実施するとの意向ですので、本町が遅れるわけにはいかないのです、何億という予算ですが、当然と思って予算化しています。

ですから、今度は、スキルを上げるため方策、子ども達の学力を上げるためにこのようにさせてもらいたいという提案をしていただければと思っています。そうすると最初に言いましたが、将来を見据えた建設的なご意見を教育委員会からいただければ、私どもも本当に真摯に検討させていただこうと思っています。

崎平係長

では、最後に教育長よりお願いします。

井上教育長

先ほど、ICT教育につきましてご意見をいただきました原田委員さんも、白川小学校でご覧になったと思われませんが、白川小学校と片島小学校の研究発表会では、全てのクラスで電子黒板を使った授業が行われていました。他の学校の先生方にお聞きしたところ、電子黒板の台数が限られているけれども、若い先生にとっては日常的に使っていますとの話を聞きます。昨日も私達、白川小学校のプログラミング教育を、教育委員会事務局の研修ということで、2年目の先生ではありましたが授業を見せていただきました。見ていると、電子黒板の中には色々なソフトが入っているのですが、社会、国語、算数等の教材が全部作られ、この先生は日常的に使っており、若い先生も積極的に使っているのだなと感じました。出来る人からどんどん進めて、広めていくようにと、校長会でも申しております。

また、県からも各学校のICTの教育を推進していく先生を育てようと研修の機会が与えられております。今、各学校から1名ずつ指導者研修に参加していますので、その先生を中心に、来年度は各学校でプロジェクトチームを作って、その先生を中心に使い方等を広めていきたいと考えております。

先日、厚生文教の議員さん達が、町田市に視察に行かれ、帰って来られた時に、町田市は一人1台端末を持っているが、端末を有効に使うためには、必ず大型提示装置、電子黒板が必要だと力説されておりました。本町は、全ての学級に設置しているわけで

はありませんので、計画的に予算を要求して設置していきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

崎平係長

ありがとうございました。町長の思いでありますとか、皆様方のご意見等を踏まえまして、事務局も施策の実現に向けて努力していきたいと思えます。

また、委員の皆様も心配してくださっています予算や人的な協力については、町長部局で対応していただけるという期待を込めまして、これで終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

一同

ありがとうございました。